

霧の籬

青木由弥子

くちづけはいのちをすいあげる行為だと
おずおずと舌をからませながら
立ち戻ってしまつて
だからあなたは
いつも濃い霧のむこうにいるのだけれど

うすやみに浮かぶまなざしの
目じりのあたりのこまかい皺や
かたちのよい鼻すじやくちもとが
浮かんでは消える
日盛りの道を

互いに
自分だけの影を踏みながら
歩いた日
たどりついた巢穴は
幾千年の積層で壁を
埋め尽くされていて
干し草の馴染んだようなにおいの
岸辺とも島の奥深いところともつかぬ場所
言葉の続いていく安堵に身をゆだねる

あの日の薄やみが
わきたち烈しく流れる雲の
乱れた空の下に漂つていて
丘のくぼ地で濃く溜まっている
梅の香に芯を
すすがれてゆくときのように
わたしを受け止めてくれる
霧に充たされていくのを
待ちながら

これで今日を
生きていくことができる

〒146-0085

東京都大田区久が原2-7-15

090-6715-6319

青木由弥子

Poetess21@gmail.com

詩集『星を産んだ日』土曜美術社出版販売 20017年

詩集『しのばず』土曜美術社出版販売 2020年

『しのばず』の帯（裏面）に、「モノローグからダイアローグへ——詩と思想新人賞から五年 あらたな境地を開く新詩集」と入れています。